

平成28年度

美馬中学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①「主体的に学習する力を伸ばす授業づくり」
- ②「学校と家庭との連携による家庭学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員
 武岡 美智 校長：真鍋 昇司 教頭：小田 直人、江藤 将 教務主任：佐藤 洋子
 1学年主任：宇山 壮史 2学年主任：松田 賢二
 3学年主任：佐藤 茂樹 特別支援コーディネーター：井関 富士子

校長

真鍋 昇司

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ・チャイム始業ができており、授業中は落ち着いた態度で授業を受けることができる。	①家庭で宿題や授業の予習・復習が毎日継続できる。 ②授業の準備ができ、見通しをもって学び、ふり返りができる。	①学校アンケートで、7割以上の生徒が「家庭学習の習慣」が定着したことを実感する。 ②7割以上の生徒が、授業の内容がわかったと実感する。			
課題 ・家庭学習の習慣が定着しておらず、授業で学習したことが定着していない生徒がいる。	具体的方策(教員の取組) ①提出している宿題の可視化と、モデルの提示をする。 ②「家庭学習の友」を有効に活用する。 ③授業始めの「本時の目標」提示を徹底し、授業終わりには振り返りの時間を確保する。	取組指標 ①充実した家庭学習をしている生徒の実践を適宜掲示する。 ②毎時間「見通し」と、「振り返り」の時間を設ける。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ・授業に対し前向きで与えられた課題に対してまじめに取り組むことができる。	①話し手の意図を考え自分の考えと比べながら聞くことができる。 ②目的に応じて自分の考えを根拠を明らかにしながら話したり書いたりすることができる。	①7割以上の生徒が、前年度より話をよく聞き相手の伝えたいことを理解できるようになったと実感する。 ②毎日1回は自分の考え等を表現する機会をもつ。			
課題 授業の中で、生徒の主体的な活動が十分行われていない場面がある。	具体的方策(教員の取組) ①各教科でペアトークや話し合い等を取り入れた学習活動を行う。 ②生徒が主体的に取り組むための授業方法について校内研修や小中学校間での授業参観を実施する。	取組指標 ①毎日1回は生徒が自分の考えや感想を述べ合う場面を設定する。 ②小学校と相互授業参観を実施し、生徒が主体的に取り組む授業方法について研修する。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 進んであいさつができ、学習のきまりをよく守り、落ち着いた雰囲気での学習ができる。	短期的、長期的な自分の目標を決めて、小さな努力を続けることができる。	8割以上の生徒が、目標をもち努力を続けることで自分が成長したと実感することができる。			
課題 家庭学習の習慣が身についておらず、目標をもって計画的に学習することが苦手な生徒がいる。	具体的方策(教員の取組) ①「家庭学習の友」を活用し定期的に入力させ、チェックし、アドバイスをする。 ②家庭訪問や三者面談時に、保護者に我が子の「家庭学習の友」を見せ、家庭での生活習慣を振り返ってもらう。	取組指標 週1回と月1回を「家庭学習の友」の記入日とし、定期的な学習や生活習慣についての見直しと振り返りができるようにする。		評価	次年度における改善事項

平成28年度 学力向上ロードマップ

